



カトリック大和教会の皆様、お元気にお過ごしですか？

主任司祭 佐藤 直樹



再度の「緊急事態宣言」が出されて早や1ヶ月が経過し、その期限がさらに1ヶ月余り延長されました。ただし、カトリック大和教会としては、宣言に先立った年末年始より“全ての小教区活動を停止する”と言う、年末のテ・デウムや教会への初詣を含め、キリスト者の信仰生活に欠かすことのできないミサへの参加等の犠牲を再度、信徒の皆様にも強いて担わせる形に踏み切らせて戴きました。これまでの皆様の献身に心から感謝いたします。

それは何よりも、まずはキリスト者が自ら率先して人の流れを自粛する十字架を担う事により、医療従事者への負担軽減を配慮することや、小教区として自らが、自分たちにとって最も大切にしているものを犠牲にしても、「感染防止対策」と言う社会貢献に寄与しようとする取り組みそのものが、今、この現代社会の中で、小さい者や弱者への配慮を最優先にしたイエスの在り方に連なる、「神の国」を実現するための、キリストの愛の実践そのものだと思えるからです。今後もキリストの名のゆえに忍耐を賜りますよう、宣言解除までの期間の辛抱のご協力をお願いいたします。

感染者数が減少傾向になってきている所は大変、嬉しい限りではありますが、重症者数の高止まりや病床の逼迫・医療崩壊の懸念、そして感染者数の高齢者が占める割合の増加は予断を許しません。最近、教会にかかってくる電話でも、私たちの教会に所属する信徒ではない日本人からの「食糧支援」の問い合わせや、それこそ「恥を忍んでお願いします。僅かで良いので現金を恵んで戴けないでしょうか？」と言う生活そのものの困窮状態が身近にひしひしと感じられるような話が出てきています。さすがに生活支援としての現金の寄付はお断りしていますが、それ以外でも「仕事の斡旋」の問い合わせすら電話口で求められたりする事に、失業に伴う困窮状態の深刻化の現実味を感じさせられます。

カトリック大和教会でも、今までは毎週日曜日にミサへの参加を通して、直に顔合わせが出来たことで、信徒の方々の安否や健康状態、生活状況などの確認がコロナ禍に於いても、ある程度は可能でした。しかし今の現況、信徒の皆様の流れを止めてしまった中で、その安否や状況の把握が非常に困難となっています。連絡が届く方への様々な確認は何とかなるのですが、連絡がなかなか難しい方々を含めて、高齢の信徒の方、独居状況にある方、何かの支援を求めようにも声を出せないでいる信徒の方などが、皆様の身近におられるようでしたら是非、気を留めて戴けたらと思います。典礼聖歌 400 番でしたか「小さな人々の一人一人を見守ろう。一人一人の中にキリストはいる」のです。そのような方をご存じの方がいましたら、お一人で悩まないように、勇気をもって声などを出してもらえたらと思います。

コロナ禍が続きます。その中で神様は何に気付くよう、私たちに求められるのでしょうか。何を具体的に実践する事でイエスの御心を果たすように願われるのでしょうか？ コロナ禍の状況だからこそ、互いに愛し合うこと、お互いのために祈り合いながら、それを問い続けつつ、信仰に於いてやるべき務めを実行していきましょう。祈りの中でキリストと深く結ばれていけますように。